

急性白血病のトータルセラピーを目指して

血液内科



副院長
(兼) 血液内科代表部長
(兼) 白血病治療センター長 高田 覚

はじめに

白血病治療センターでは急性白血病のトータルセラピーを目標に診療を行っています。ここで言うトータルセラピーとは、「全ての白血病の患者さんに対して最良の医療を自施設で提供できる」ことを指します。治癒を目指す患者さんに対しては積極的に強力な化学療法及び造血幹細胞移植を実施しています。残念ながら治癒を望めない患者さんに対しては、QOLを保ちながら輸血を中心とするBest supportive care (BSC) を行っています。

診療体制

当センターの常勤医は6名です。そのうち4名が血液専門医で3名が造血細胞移植専門医です。外来は毎週火曜日の午後に血液専門外来を行っています。加えて月、水、木、金にも各一名の血液内科医が外来を担当しています。白血病が疑われる患者さんは月曜から金曜まで毎日対応可能です。入院はB棟3階に47床のベッドを有しており、一般病床が24床、写真に示している移植用完全無菌室(class 100)が3床、化学療法用無菌室(class 1000)が20床です。治療に際しては、医師と看護師に加えて薬剤師、栄養士、理学療法士等の多職種のスタッフが直接患者さんとの関わりを持ちながら診療を行っています。

移植用無菌室 (class 100)



化学療法用無菌室 (class 1000設計)



診療実績

2019年度はのべ613人の患者さんが入院治療を受けています。群馬県内に加えて埼玉県、栃木県からも患者さんを受け入れています。上位3疾患は急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、急性リンパ性白血病でした。新規の急性白血病の患者さんは66名で、急性骨髄性白血病が56人、急性リンパ性白血病が10人でした。

a. 化学療法

2019年度はのべ241人の急性白血病患者さんが入院治療を受けています。全国にはDPC算定病院が4764あり、急性白血病患者さんの入院数は第12位でした。また、成人白血病治療共同研究機構にも属しており、治療成績の向上を目指して臨床試験も行っています。

b. 造血幹細胞移植

白血病治療のもう一つの柱である造血幹細胞移植は、例年20名前後の患者さんに実施しています。これまでに600人の方が移植を受けられています。このうち、188人が血縁者間移植、265人が非血縁者間(骨髄バンクからの)移植でした。2005年からは臍帯血移植も本格的に開始され、これまでに146人の方に臍帯血移植が実施されています。

c. BSC

高齢や全身状態不良で抗癌剤治療が受けられない方、治療抵抗性となってしまった方に対しては出来るだけ在宅で過ごしていただくために外来での輸血を行っています。通院が困難な方につきましては近隣の医療機関を紹介し、ご本人とご家族の負担軽減を図っています。

d. 薬剤の開発治験

急性白血病の薬物療法はここ数年、急速に進歩しています。チロシンキナーゼ阻害薬をはじめとする分子標的治療薬や抗体医薬に加え、遺伝子工学を用いた改変した第三者の細胞や培養細胞を用いた細胞用法が開発されつつあります。当院は製薬企業の薬剤の開発治験に積極的に協力しています。2019年度の新規治験参加者は第1/2相治験が2名、第2相治験が4名、第3相治験が3名でした。

セカンドオピニオンについて

当センターでは既に他医で白血病の治療を受けている方に対して、セカンドオピニオン外来(予約制)を設けております。ご希望がありましたら地域連携課へご連絡ください。